



英ブリグジットの行方、次期首相・保守党党首選

テレッサ・メイ首相の辞任によって、次期英国首相選定が最終局面を迎えています。7月に保守党党员による決選投票で次期首相が決定する。結果は7月22日の週に発表される見込みです。保守党党员へのアンケート調査結果でも、ボリス・ジョンソン元外相への支持率が高く、10月末に延期された期限までに、EUとの再交渉を行い、もし決裂した場合は合意無きEU離脱をする方向で、英国内の世論は動いていきそうです。

一方、離脱反対派はジョンソン氏失脚に向けたスキャンダル探しに奔走しているようです。

2019/06/27

金融商品取引業者：ブライツ・アセット株式会社
登録番号：関東財務局長（金商）第3102号
加入協会：一般社団法人第二種金融商品取引業協会
一般社団法人金融先物取引業協会
一般社団法人日本投資顧問業協会
HP：www.brightasset.co.jp

当資料は、投資環境に関する参考情報の提供を目的としてブライツ・アセット株式会社が作成した資料です。投資勧誘を目的としたものではありません。当資料は信頼できると考えられる情報に基づき作成されていますが、情報の正確性、完全性を保証するものではありません。ここに示された意見などは、当資料作成日現在の当社の見解であり、事前の連絡なしに変更されることがあります。投資に関する決定は、お客様ご自身で判断なさるようお願いいたします。

英保守党党首選、ジョンソン氏とハント氏で決選投票へ 7月下旬に新首相決定

イギリスの保守党党首選は20日に最後の保守党議員投票を行い、候補者が**ボリス・ジョンソン前外相（強硬離脱派）**と**ジェレミー・ハント外相（穏健離脱派:国民投票前は離脱反対）**の2人に絞られた。両者は今後、全国16万人の保守党員による投票で一騎打ちし、次期党首が決まる。次期党首は自動的にイギリスの首相となる。**6月22日より保守党党員約16万人による郵便投票が行われる。結果は7月22日の週に発表される。**

第5回目の議会保守党員投票でジョンソン氏は、保守党議員313名のうち160票と過半数を超える票を獲得した。一方、ハント氏はマイケル・ゴーフ環境相(強硬離脱派)と接戦を繰り広げ、2票差の77票で辛勝した(ゴーフ環境相は75票、わずか10日前に、20年前のジャーナリスト時代にコカインを使ったことを認めただけだと思えば、善戦したといえるだろう)。

結果を受け、ジョンソン氏はツイッターで「最終投票で50%以上の支持を得たことに深く感謝している。支援ありがとう！ 全国を訪問すること、私のブレグジット（イギリスの欧州連合離脱）計画を進めること、イギリスをまとめ、皆にとって明るい未来を作るのを楽しみにしている」と述べた。

ジョンソン陣営は今回の結果に大いに満足しているようだ。2016年夏の党首選にも出馬していたが、ゴーフ環境相が自分を批判して立候補した後に辞退していた。ゴーフ氏が2位になるのを阻もうと、ジョンソン陣営が自分たちの支持者をハント氏支持に回らせたのではないかと、そのように水面下で工作していたのではないかと、様々なうわさが飛び交っている。そのような工作は決してあってはならないと、ジョンソン氏は姿勢を明示し、そのような真似は決して受け入れないと言明していたのだと、ジョンソン陣営の幹部は言う。しかし、首をひねる人は大勢いた。第4回投票で敗退したサジド・ジャヴィド内相の支持者のうち、少なくとも4人がジョンソン氏を支持すると宣言していたが、次の投票でジョンソン氏の得票は3票しか増えなかった。ゴーフ氏との決選投票を回避するため、ジョンソン陣営は前外相を支持する議員たちのネジを巻いたのだろうか？ 自分たちの一票をハント氏に「貸す」と。閣僚の1人は、「洗濯機より激しい攪拌（かくはん）だった」と語った。議員投票は秘密投票だったので、何があったのか正確に知ることはできない。しかし、票の囲い込みは、政治で結果を出すための基本的な手法だ。

いずれにしろ、次期首相選の物語における、このエピソードは終わった。次にイギリスを動かす人物の選択肢は、2人に絞られた。現時点では（まだまだ道のりは長いけれども）、ジョンソン氏が首相官邸の新たな主になるだろうと、大勢が予測していることは疑いようがない。それでも、今回の投票結果にジョンソン陣営は胸をなでおろしている。理由は簡単だ。ハント氏が相手のほうが、勝ちやすいと考えているのだ。ハント氏とゴーフ氏の政治家として流儀の違いや、能力の比較はここでは関係ない。ハント氏は2016年の国民投票でEU残留を支持していた。そこがポイントなのだ。

多くの保守党員にとって、EU離脱という目的に長く取り組んできたことが、次の党首の必須条件だ。たとえ今どれだけ熱心でも、最近になって宗旨替えしたのではダメなのだ。

ジョンソン氏は、欧州議会議員の息子で、名門イートン校、オックスフォード大学で学んだ。「デイリー・テレグラフ」記者時代は、ブリュッセルから反EU（反ドロール）の記事を書き続けた。その後、政治家に転身、庶民院議員、ロンドン市長後、庶民院議員となり、EU離脱を主導、メイ首相時代には、外務大臣を務めるが、メイ首相の穏健離脱方針に反発し外務大臣を辞任。

ハント氏は名門パブリックスクール（チャーター・ハウス校）とオックスフォード大学出身の元閣僚、日本で2年間の英語教師の経験があり、日本語堪能。妻は中国人。

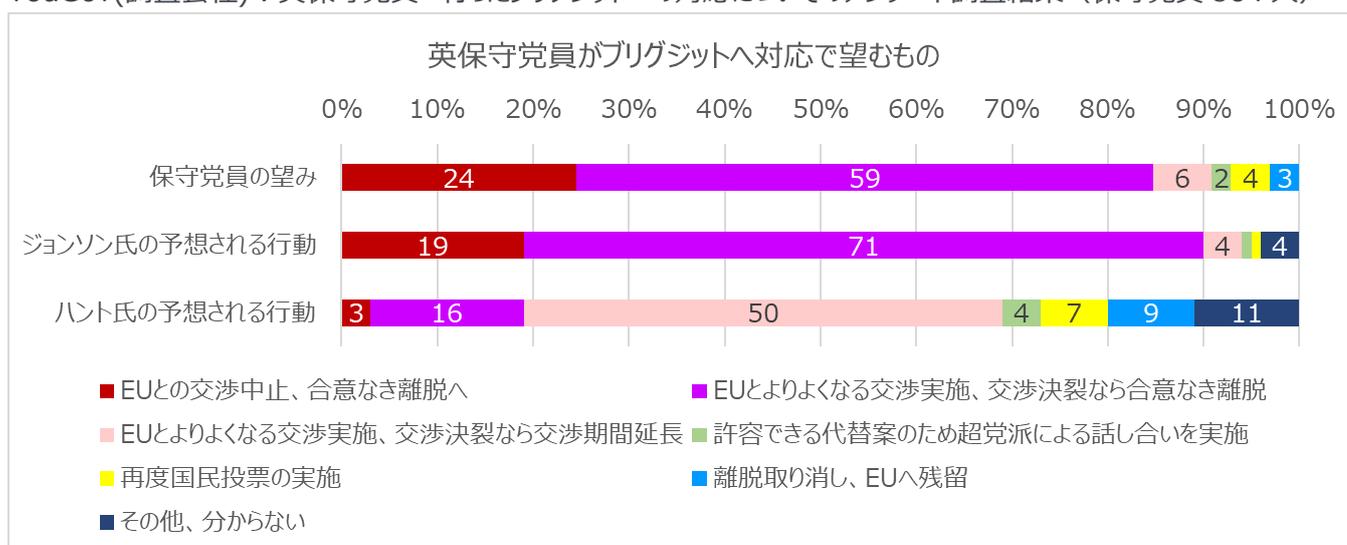
(2019/6/25 BBCより)

保守党党首選挙世論調査動向

調査日	調査会社	サンプル数	ボリス・ジョンソン	ジェレミー・ハント
6/19-21	YouGov	保守党員 864人	74%	26%
6/22	ComRes	保守党議員	61%	39%
6/3-4	YouGiv	1755	19%	4%
5/29-30	Deltapoll/Mail on Sunday	2449	32%	9%
5/28-30	Opinium	2005	19%	5%

(2019/6/25 各種報道より)

YouGov(調査会社)：英保守党員へ行ったブリグジットへの対応についてのアンケート調査結果（保守党員 864人）



YouGov 6/19-21 調査より

英首相候補ジョンソン氏、10月31日のEU離脱目指す考えを再表明

22日、欧州連合（EU）と離脱条件などで合意しなくても10月31日に離脱することを目指す考えをあらためて示した。ジョンソン氏は他の4人の候補とともに参加したBBCの討論会で、英国は10月31日までにEUを離脱すると改めて表明。「10月31日に離脱しなければ、政治に対する信頼が壊滅的な打撃を受ける」とし、これに向け準備する唯一の方法は合意なき離脱に備えることだと述べた。

(2019/6/25 ロイターより)

ジョンソン前英外相、交際相手と口論し通報される 次期首相の有力候補

英紙ガーディアンによると、キャリー・サイモンズ氏の自宅の隣人（反EU離脱派）は21日未明、隣の家から「ものを叩く音やバタンという音」のほか、サイモンズ氏がジョンソン氏に「触らないで」、「出て行って」と言う声を聞き、警察に通報した。サイモンズ氏は、2018年からジョンソン氏と交際している。ロンドン警視庁は、通報された住所の住民から話を聞き、全員が無事だと判断したとして、これ以上この件を調べるつもりはないと明らかにした。

ガーディアンが入手した口論の録音では、ジョンソン氏は家を出ていくことを拒否。サイモンズ氏に自分のパソコンから「離れろ」と言った後、大きな物音がしたという。同紙によると、録音でサイモンズ氏はジョンソン氏が赤ワインでソファを台無しにしたと責め、「なにもかもどうでもいいと思ってるでしょう。わがままだから。お金だろうが何だろうが、どうでもいいのよね」と非難していたという。

(2019/6/24 BBCより)

当資料は、投資環境に関する参考情報の提供を目的としてブライト・アセット株式会社が作成した資料です。投資勧誘を目的としたものではありません。当資料は信頼できると考えられる情報に基づき作成されていますが、情報の正確性、完全性を保証するものではありません。ここに示された意見などは、当資料作成日現在の当社の見解であり、事前の連絡なしに変更されることがあります。投資に関する決定は、お客様ご自身で判断なさるようお願いいたします。

アングル：英首相有力のジョンソン氏、「問題児」でも支持強固

メイ英首相の後継レースで優位に立つジョンソン前外相（55）に対する与党・保守党員の感情は複雑だ。

例えば学校の就職アドバイザーを務め、地元教会でボランティアに従事する女性のデリス・マイルズさん（66）は、人生において正直さと家族の価値、道徳性の高さを最も重視し、薬物摂取や不倫を忌み嫌っている。そのマイルズさんは、ジョンソン氏がかつて不倫問題などで2度もうそをついたと非難されたことや、愛人にお金を払って中絶させたり、コカインを吸っていたと認めたことは全て承知の上で、来月の保守党員による決選投票でジョンソン氏に1票を投じるつもりだ。ジョンソン氏の性格に関する懸念よりも、欧州連合（EU）離脱と党勢回復の方が大事だと語り、同氏を熱烈に応援するという。マイルズさんは「本当に難しいところだ。時には自分自身でもなかなか説明がつかない。ジョンソン氏は愛されるか、嫌われるかどちらかで、彼を愛するなら欠点には目が向かない。私もその1人に入っている。彼の道徳心のなさがことさらに好きなわけではない」と話した。

ジョンソン氏が首相になれば、足場の弱い少数派政権を率いることになる。ブレグジット（英のEU離脱）の在り方を巡る合意がなく深刻な意見対立を抱える議会、そして英国の政治情勢に堪忍袋の緒が切れつつあるEUの交渉担当者にも向き合わなければならない。16万人の保守党員による党首選決選投票結果は、7月23日に発表される。党員のほとんどがブレグジット推進派で右派であるため、ジョンソン氏が対抗馬のハント外相（52）に対して圧倒的に有利な状況にある。いくらジョンソン氏に「うそつき」「誇張主義者」「不真面目」「だらしない」といった悪評が付きま、前週末には交際相手と口論になって近所の人に通報される事態が報じられても、

<無い物ねだり>

保守党の院外団体を率いるエド・コストロー氏は、大半の党員はジョンソン氏を求めており、それは彼こそが既存政治勢力の反対を押しつけてブレグジットを実現できるとみているからだと説明した。コストロー氏は「ブレグジットはありきたりの官僚的、行政的手段では決して達成できない」と強調し、トランプ米大統領のような既成政治と対決する姿勢が必要になっていると指摘。「ボリスは欠点のある人物だし、ひどく変わり者だが、ほとんどの政治家は彼より劣っている」と述べた。さらにコストロー氏によると、英国を第1次世界大戦の勝利に導いたデービッド・ロイドジョージや、米国で人気があったジョン・F・ケネディ大統領など私生活面で難があったものの、政治家として成功を収めた例があり、「マザー・テレサ（のような聖人君子）が首相になってくれれば素晴らしいが、そんなのは無い物ねだりだ」という。

もちろん党員の中にはハント氏に投票した方が無難だとの声もある。ハント氏支持派の女性のメアリー・ダグラスさんは、米国でトランプ氏が人格的に問題視されながらも大統領に当選したのと同じ轍を踏もうとしていると警告。「そうした過ちをわれわれが繰り返さないように私は熱心に活動している。なぜなら有権者は自分たちに見合う政治指導者を選ぶ、というのが私の確固たる考えだからだ。米国と同じ状況に置かれたくない」と力説した。

ただ多くの党員は、ジョンソン氏のようにカリスマ性があり、はっきりとブレグジット賛成を掲げる政治指導者だけが、かなり近く実施されるかもしれない総選挙で、ジェレミー・コービン氏が率いる左派の労働党首や、ナイジェル・ファラージ氏の下で先の欧州議会選で躍進したブレグジット党といった野党に勝つことができると考えている。

ある党員は「コービン氏は好みは別として、群衆を熱狂させ、ニュースの見出しを飾り、人々を引き付ける力を持っている。われわれはまさにそうしたことが可能な党首を必要としており、決選投票の残った2人のうちならジョンソン氏しかいない、というのが私の見方だ」と明言した。

（2019/6/26 ロイターより、Andrew MacAskill、William James 記者）

ジョンソン前英外相、「合意なしブレグジットにもEUの協力必要」BBC独占インタビュー

イギリスの与党・保守党党首選に立候補しているボリス・ジョンソン前外相は24日、欧州連合（EU）と合意なしにEUを離脱する場合でも、アイルランド国境の管理や関税を避けるため、EUの協力が必要だと述べた。

BBCの独占インタビューでジョンソン氏は、「これは私たちだけの問題ではない」と語った。一方で、合意なしブレグジット（イギリスのEU離脱）をすることも辞さないと話す半面、そうなるとは「一瞬たりとも思ったことはない」と述べた。

週末から話題となっていた恋人の自宅で激しく口論したため隣人が警察を呼んだ出来事については、議論に「愛する人」を巻き込むのは「単純に不公平だ」と述べた。

ジョンソン氏は、テリーザ・メイ首相がEUと取りまとめた離脱協定は「死んでいる」と話した。また、イギリスと欧州の政治状況は当時とは変わったことから、離脱の期限である10月末までにEUと協定を再交渉できると指摘。「3月29日と比べて政治情勢は大きく変わったと思う」、「イギリスも欧州も、（離脱に向けて）何が必要かと言う理解が変わったのではないか」と話した。離脱協定で焦点となっていたアイルランドと英・北アイルランドの国境問題についても、EUを説き伏せて解決策を見いだせるとしている。EU幹部は繰り返し協定の再交渉はできないと警告しているが、ジョンソン氏は「大量の、本当にたくさんの技術的解決策」を行えば国境管理を避けられると述べた。クスバーク編集長がこうした解決策はまだ存在しないと指摘すると、ジョンソン氏は「実はもうある。非常に大きな基準でも存在するし、信頼できる取引業者を選ぶ計画もある。実施可能なありとあらゆる計画がある」と話した。一方で、この問題を解決する「ただひとつの特効薬」はないと認めた。

ジョンソン氏は、次期首相に選ばれた暁にはただちに自由貿易協定（FTA）についての議論を始めると述べた。また、ブレグジット後に貿易協定が決まるまでは、EUが現状を維持する期間を認めてくれることを望んでいると話した。ジョンソン氏はこの期間を「履行期間」と表現したが、これはメイ首相の離脱協定で定められたブレグジット後の移行期間とは別物だとしている。また、在英EU市民の権利保障についてもできるだけ早く法律を可決させたいと話した。

さらに、5月に行われた欧州議会選挙でイギリスからブレグジット党所属の議員が多数選出されたことにも言及。EUは欧州議会にブレグジット党員を置いておきたくない一方、EU離脱のための清算金390億ポンドは欲しいと願っていることから、再交渉が可能なのではないかと示唆した。

<分析>「もしも」と「ただし」だらけの計画 ——ローラ・クスバーク政治編集長

非常に議論を呼んでいるジョンソン氏の賭けでは、10月末までにEU幹部と新たな通商協定を再交渉できるらしい。さらに、最も議論が分かれている難問、アイルランド国境をめぐるジレンマについても、離脱日までに解決できると語った。ジョンソン氏は明らかに、自分にはその能力があると信じている。本人も支持者も、それが計画だと言うだろう。

しかしそれは、「もしも」と「ただし」だらけの計画だ。ハロウィーンまでにEU幹部と議会がジョンソン氏のビジョンを支持するというのは、その見通しが英雄的であれ無鉄砲であれ、かなりタイトなスケジュールだ。

政治的圧力は高まっている。ただ早く終わらせろというだけではなく、世界の国々との関係やイギリス国民の生活を傷つけずに行えという圧力だ。

また私生活の問題については、首相官邸に手が届きそうな今ですら、答えなくてもいい質問があるとジョンソン氏が思っていることは明らかだ。

だが多くの人がジョンソン氏の性格に不信感を抱いている中、同氏がもっと情報を提供するまでこうした質問は付いて回るだろう。

(2019/6/25 BBCより)